

令和元年 9 月 1 日
都市整備部 建築課

令和元年度 目黒区応急危険度判定模擬訓練

次 第

8:40-8:55	判定員受付
9:00-9:05	課長挨拶
9:05-9:10(5)	コーディネーター紹介
9:10-9:25(15)	本日の訓練内容説明、班分け、班長決定 (コーディネーターが班分け及び班長決定をサポート)
9:25-10:00(35)	ビデオ講習 (防災協会作成応急危険度判定講習ビデオ)
10:00-10:30(30)	下げ振り測定訓練 (別紙演習資料参照) ※10:30までに多目的室へ戻ってください。
10:30-10:45(15)	①各チームから班長へ報告及び班長集計表まとめ ↓ ②班長からコーディネーターへ結果報告・資料提出 ↓ ③コーディネーターによる記載事項の確認
10:45-11:00(15)	演習結果説明、総括、解散

令和元年度 目黒区総合防災訓練 実施概要

1 日 時

令和元年9月1日(日) 午前9時から午前11時30分まで

(雨天の場合は、一部内容を変更して実施)

※ 災害発生やそのおそれがある場合は、当日午前6時に中止を決定。

2 会 場

区立目黒中央中学校(目黒区中町二丁目37番38号)

3 被害想定

令和元年9月1日(日) 午前8時30分に、東京湾北部を震源とする直下地震(マグニチュード7.3)が発生し、目黒区では震度6強を観測した。区内全域で、電気・水道・ガス等ライフラインの途絶、家屋の倒壊といった深刻な被害が発生しており、区では、目黒区災害対策本部を立ち上げ、被害状況の情報収集に努めるとともに、参集指定職員が各地域避難所に参集し、避難所開設の準備を進めている。

4 目 的

区、防災関係行政機関及び区民が一体となって、地域防災計画の内容を反映した訓練を行い、「自らの身の安全は自らが守る。自分たちのまちは自分たちで守る。」という意識に基づく「自助・共助」及び「防災関係行政機関等による公助」との連携を強化し、地域防災力の向上を図る。

5 訓練内容

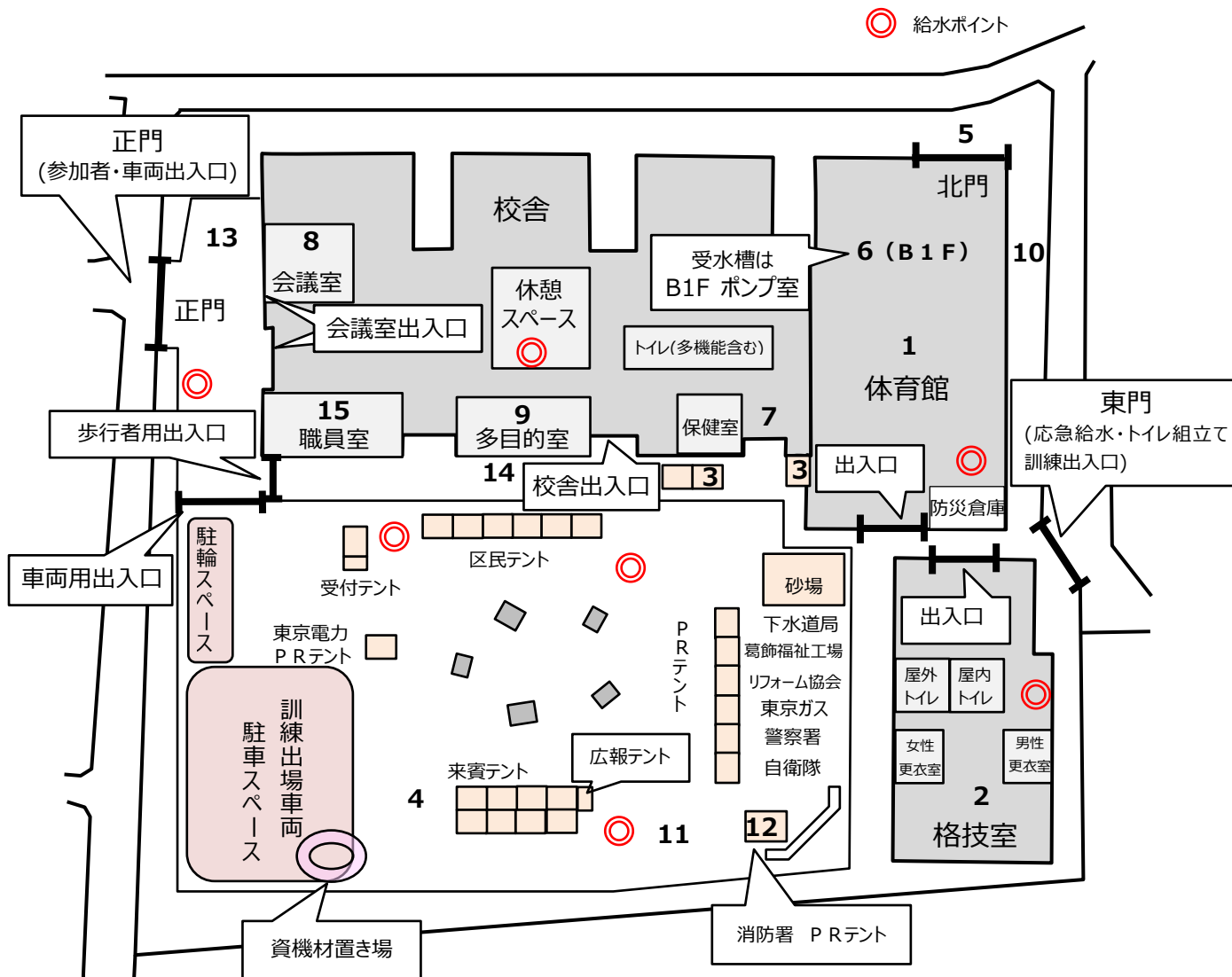
- | | |
|---------------|--|
| ・地域集団避難訓練 | 一時集合場所からの集団避難訓練など |
| ・避難所開設訓練 | 避難所開設訓練、避難所資機材取扱い訓練 |
| ・安否確認・避難支援訓練 | 要配慮者の安否確認、避難所への避難支援訓練 |
| ・応急危険度判定訓練 | 応急危険度判定に係る訓練及び説明会 |
| ・区民給食訓練 | アルファ化米による炊き出し訓練
日赤奉仕団によるハイゼックス製の炊飯袋を用いた炊き出し訓練 |
| ・救出救助(機関連携)訓練 | 地域住民、防災関係行政機関が連携した倒壊家屋からの救出救助・消火活動など |
| ・機関PRコーナー | 防災関係行政機関による防災に関する展示・実演など |
| ・個別訓練 | 初期消火・応急救護、起震車・煙ハウス体験、応急給水、ペット同行避難訓練など |
| ・物資搬送訓練 | 備蓄倉庫からの飲料水搬送訓練 |

6 時 程

- | | |
|---------|---|
| 9:00～ | 開始
来賓紹介・区長挨拶 |
| 9:15～ | 避難所開設訓練、開設後順次、資機材取扱い訓練等個別訓練開始
防災関係機関PRコーナー開始 |
| 10:30頃～ | アルファ化米等の配食開始 |
| 10:40～ | 救出救助(機関連携)訓練 |
| 11:15～ | 閉会(消防署長講評) |
| 11:30 | 訓練終了 |

以 上

7 会場全体図



番号	訓練内容	場 所	番号	訓練内容	場 所
1	避難所開設	体 育 館	9	応急危険度判定	多目的室
2	応急救護訓練	格 技 室	10	トイレ組立て	北門付近
3	給食炊き出し	校 庭	11	初期消火	校 庭
4	地震体験(起震車・煙)	校 庭	12	救助資機材展示	校 庭
5	応急給水 (スタンドパイプ)	北門付近	13	ペット同行避難訓練	正門入口駐車場
6	応急給水 (D級ポンプ)	地下1階 (北門入って下る)	14	発電機・投光機取扱い	校 庭
7	特設公衆電話設置	昇 降 口	15	無線機操作	職 員 室
8	安否確認・避難支援訓練	会 議 室			

※ レイアウトは変更になる場合があります

木造建築物の応急危険度判定調査表

集計欄は数字で記入

木

整理番号 7-12 調査日時 1月25日 午前・午後 3 時 調査回数 回目
 調査者氏名 (都道府県/No) 川端 太郎 (愛知県/7A-803)
岡田 一郎 (愛知県/9E-799)

整理番号
7-12

建築物概要

- 1 建築物名称 田中 二郎 1.1 建築物番号 15
 2 建築物所在地 東山町15 2.1 住宅地図整理番号 20
 3 建築物用途 戸建て専用住宅 2.長屋住宅 3.共同住宅 4.併用住宅 5.店舗 6.事務所
 7.旅館・ホテル 8.庁舎等公共施設 9.病院・診療所 10.保育所 11.工場
 12.倉庫 13.学校 14.体育館 15.劇場、遊戯場等 16.その他 ()
 4 構造形式 在来軸組構法 2.枠組(壁)工法(ツーバイフォー) 3.プレファブ 4.その他 ()
 5 階数 1.平屋 2階建て 3.その他 ()
 6 建築物規模 1階寸法 約 8 m × 9 m

建築物番号
15
住宅地図整理番号
20
3 1
4 1
5 2 階
ア 8 m
イ 9 m

調査 調査方法: 外観調査のみ実施 2.内観調査も併せて実施)

1 一見して危険と判定される。(該当する場合は○を付け危険と判定し調査を終了し総合判定へ)

1.建築物全体又は一部の崩壊・落階	2.基礎の著しい破壊、上部構造との著しいずれ
3.建築物全体又は一部の著しい傾斜	4.その他 ()

調査方法
1
1 ✓

2 隣接建築物・周辺地盤等及び構造躯体に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
①隣接建築物・周辺地盤の破壊による危険	1.危険無し	<input checked="" type="checkbox"/> 2.不明確	3.危険あり
②構造躯体の不同沈下	<input checked="" type="checkbox"/> 1.無し又は軽微	2.著しい床、屋根の落ち込み、浮き上がり	3.小屋組の破壊、床全体の沈下
③基礎の被害	1.無被害	<input checked="" type="checkbox"/> 2.部分的	3.著しい(破壊あり)
④建築物の1階の傾斜	1.1/60以下	2.1/60~1/20	<input checked="" type="checkbox"/> 3.1/20超
⑤壁の被害	1.軽微なひび割れ	<input checked="" type="checkbox"/> 2.大きな亀裂、剥落	3.落下の危険有り
⑥腐食・蟻害の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 1.ほとんど無し	2.一部の断面欠損	3.著しい断面欠損
危険度の判定	1.調査済み 全部Aランクの場合(要内観調査)	2.要注意 Bランクが1以上ある場合	<input checked="" type="checkbox"/> 3.危険 Cランクが1以上ある場合

① 2
② 1
③ 2
④ 3
⑤ 2
⑥ 1
判定
3

3 落下危険物・転倒危険物に関する危険度

	Aランク	Bランク	Cランク
①瓦	1.ほとんど無被害	<input checked="" type="checkbox"/> 2.著しいずれ	3.全面的にずれ、破損
②窓枠・窓ガラス	1.ほとんど無被害	<input checked="" type="checkbox"/> 2.歪み、ひび割れ	3.落下の危険有り
③外装材 湿式の場合	1.ほとんど無被害	2.部分的なひび割れ、隙間	3.顕著なひび割れ、剥離
④外装材 乾式の場合	1.目地の亀裂程度	2.板に隙間が見られる	<input checked="" type="checkbox"/> 3.顕著な目地ずれ、板破壊
⑤看板・機器類	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜	3.落下の危険有り
⑥屋外階段	1.傾斜無し	2.わずかな傾斜	3.明瞭な傾斜
⑦その他(ブロック塀)	1.安全	2.要注意	<input checked="" type="checkbox"/> 3.危険
危険度の判定	1.調査済み 全部Aランク	2.要注意 Bランクが1以上ある場合	3.危険 Cランクが1以上ある場合

① 2
② 2
③ ✓
④ 3
⑤ ✓
⑥ ✓
⑦ 3
判定
3

総合判定 (調査の1で危険と判定された場合は危険、それ以外は調査の2と3の大きい方の危険度で判定する。)

1. 調査済 (緑) 2. 要注意 (黄) 3. 危険 (赤)

総合判定
3

コメント (構造躯体等が危険か、落下物等が危険かなどを記入する。)

建築物が傾斜しており倒壊の危険があります。
ブロック塀が傾斜しており危険です。

1 下げ振り測定演習

- (1) 木造の建築物の傾斜測定訓練を行います。
- (2) 各班それぞれの班名の傾斜板のみ測定し、下表を穴埋めしてください。
- (3) その結果に基づき判定したランクに○をつけてください。
- (4) 傾斜によるランクにより、危険度の判定を行なってください。
- (5) その他
 - ・ 測定方法は下記「傾斜の測り方」（マニュアル抜粋）を参照してください。
 - ※貸し出し用下げ振りは水系に1200mmでマーク済み（下側に黒マーク、上部に赤マーク）
 - ・ ニードルは使用せず、固定する人と測定する人の2名で作業してください。

測定変形量		ランク
() / 120	⇒	1 / ()
		A ・ B ・ C

傾斜の測り方

建築物の1階での傾斜は以下のように計測して下さい。

h (1200mmが便利) とdの寸法を測定し、d/hの値を計算する。

Aランク	Bランク	Cランク
$d/h \leq 1/60$	$1/60 < d/h \leq 1/20$	$d/h > 1/20$

h=1200mmの場合

Aランク	Bランク	Cランク
$d \leq 20\text{mm}$	$20\text{mm} < d \leq 60\text{mm}$	$d > 60\text{mm}$

(被災建築物応急危険度判定マニュアルより抜粋)

↓
上記ランクより、危険度を判定し下表の数字へ○を付けてください。

危険度の判定	1. 調査済み 全部Aランクの場合（要 内観調査）	2. 要注意 Bランクが1以上ある場 合	3. 危険 Cランクが1以上ある 場合
--------	---------------------------------	----------------------------	---------------------------

↓
ステッカーを選択・記入し、掲示場所へ掲示してください。

↓
多目的室へ戻り、「チーム集計表」へ記録し、班長へ提出して終了。

↓
※ここから先は班長のみ業務となります。

班長は各チームから提出されたチーム集計表を「班長集計表」へまとめる。

↓
各班担当のコーディネーターへチーム集計表及び班長集計表を提出・報告してください。